

## 31. 「喜びと感謝の生活」

2010年5月1日 社会福祉法人 江刺保育園

私たちは普段の生活で、過ぎて行く時間の経過を何も考えず、当たり前のことのように過ごしています。そして家族の健康が支えられ、なにも不安がなく平穩に時間が過ぎて行くことを誰もが望んでいると思います。毎日、変わりなく平穩に過ごしたいという思いと、何か心がときめくような体験をしたいと思うこともあります。時折、家族が病気になったり、仕事が上手くいかなくなったり、経済的に苦しくなったり等、様々な困ったことにも遭遇します。様々な出来事を私たちは体験しながら自分の人生を歩んでいます。

その中で、子どもを育て、その成長を支えるという子育て体験を私たちは如何に捉えているのでしょうか。それぞれの家族によってその思いは様々であると思いますが、子どもを育てる体験ほど私たちの人生を豊かにする体験はないと思います。人間として体験するすべての事柄を実際に経験することになります。それは決して心地良いことばかりではありません。中には体験したくないこともあります。苦しみや、悲しみを伴う体験もあることでしょう。その経験を積むことにより、私たちは人間らしい人間になっていくのだと思うのです。この地上に命を与えられた生き物として、確かに生きた証を残すのです。これは自分の命を未来に繋げるという働きです。

すべての生き物はこの働きを本能として備えています。そして、地上のすべての生き物はこの働きを、自らの命をかけて全うします。それが生き物としての究極の喜びであるからです。たとえその時が苦しくても、どんなに悲しいことがあったとしても、子どもを育てることは自分が生きること以上に大切であるという思いがあるからです。現在の私たち人間はこの働きを喜びとしているのでしょうか。残念ながら、喜びではなくなっています。喜びというよりは苦しみと捉えてしまっているようです。現代人たちが命の誕生を心から感謝し、大きな喜びとして捉えられなくなっているように思えるのです。生き物としての人間の限界が近づいているのかもしれませんが。私たちは未来に対して自然な方向性、本来あるべき正しい道を見失いかけているのかもしれませんが。私たちの生き方が不自然で、どこか誤った方向に向いているのかもしれませんが。ですから、本来あるべき感謝と喜びの出来事が苦しみの出来事のように思い、人は命を次の世代に渡すことをためらうようになったのではないのでしょうか。

人として本来あるべき方向性、正しい生き方とはどんな生き方なのか、私にはよくわかりません。ただ、言えることは子どもの誕生と、その命を育てることが、心からの感謝と大きな喜びを生み出すということだけです。この思いが実感できる世の中であるなら、私たちの人生はより豊かになるのだと思います。



### おからケーキの材料

(アルミカップ 5 個分)

おから 25 g、にんじん 15 g、ピーマン 15 g、  
たまねぎ 15 g、小麦粉 75 g、砂糖大さじ 3、  
B・P 小さじ 1、卵 1 / 2 ケ、豆乳小さじ 5、  
バター 25 g

### おからケーキの作り方

- ① にんじん、ピーマン、たまねぎ、みじん切りにする。
- ② ボウルに材料全部入れて混ぜる。
- ③ オーブンを 180℃ に温め、アルミカップに②の材料を入れて 15 分位焼く。

